

B-113 体形およびシルエット計測に関する基礎的研究 (第3報) 図学的図示法
 実践女大家政 ○平岡和香子 苅立女短大 綾田雅子 吉田悦子 関山和世
 福知山淑徳高校 菊藤法 苅立女短大 山口正隆

目的 第1報における理論から測定被写体の輪郭によっては平行線の投写方向や撮影角度など効果的条件を見出す必要がある。第2報の特性値を利用してこれらを設定し、図学的に図示することによって必要時、必要寸法が自由に求められるようにしようとするものである。

方法 右図Aは $\phi=0$, $\theta=0$ の条件で撮影したもので $\alpha_0=\pi$ であるからそのまゝ図示できるが、腕や乳房などの死角はまぬがれない。図Bは $\phi=\pi/4$, $\theta=\pi/4$ の条件で測定したもので α_ϕ による補正により図示可能である。図Cは $\phi=\pi/6$, $\theta=\pi/4$ の条件で測定した着用シルエットである。

結果 測定条件を被写体の条件から算定して、必要数方向を撮影合成することによって、平面、側面、正面図を容易に求めることができた。

